〈共同研究〉称名寺聖教『法事讃光明抄』について（三）

―「少善根」「随縁雑善」理解に対する一考察と巻三翻刻―

佐竹真城・赤松信映・西村慶哉・井上慶淳

Some Notes concerning the『法事讃光明抄』（三）Contained in the Shomyoji Temple

Shinjo SATAKE,Shin'ei AKAMATSU,
Keisai NISHIMURA,Keijun INOUE

岐 阜 聖 徳 学 園 大 学
仏教文化研究所紀要第21号
２０２１年３月

〈共同研究〉称名寺聖教『法事讃光明抄』について（三）

―「少善根」「随縁雑善」理解に対する一考察と巻三翻刻―

佐竹真城・赤松信映・西村慶哉・井上慶淳

要旨

『法事讃光明抄』四巻は神奈川県称名寺所蔵（神奈川県立金沢文庫管理）になる国宝称名寺聖教の中の一書であり、善導（六一三―六八一）撰『法事讃』二巻を註釈したものである。撰者は法然（一一三三―一二一二）の門下の一人である覚明房長西（一一八四―一二六六）である。全四巻のうち巻一・二については概要とその翻刻を報告済みであり、本稿はその続編にあたり、巻三の翻刻ならびにその内容について一考を加え、中世浄土教研究の進展に資することを目的とする。

キーワード 法然　覚明房長西　九品寺流　少善根　随縁雑善

はじめに

小論は、「〈共同研究〉称名寺聖教『法事讃光明抄』について（一）概要と巻一翻刻―」[1]および「〈共同研究〉称名寺聖教『法事讃光明抄』について(二)―所引の『阿弥陀経』註釈書からみる展望と巻二翻刻―」[2]と題して発表した論攷の続編であり、称名寺聖教『法事讃光明抄』巻三の翻刻を掲載するものである。したがって、概要ならびに巻一・二の翻刻は前稿を参照願いたい。また、巻三の翻刻を紹介するにあたって、九品寺流の諸師における「少善根」「随縁雑善」の理解について考察しておきたい。

「少善根」「随縁雑善」理解に対する一考察（井上）

『法事讃疑芥』[3]巻三には、『法事讃』巻下の転経分第一段の「捨彼荘厳」（『聖典全書』一、八三〇頁）から第十段の「貪瞋即是身三業」（『同』一、八四四頁）までが釈されている。このなか注目されるのが、『阿弥陀経』における少善根と多善根に関する議論、所謂「嫌貶開示」についてである。『法事讃疑芥』における「嫌貶開示」理解については、既に佐竹真城氏が指摘しているように、良忠（一一九九―一二八六）撰『法事讃私記』との関係が窺える。[4]すなわち、良忠が『法事讃私記』において「或人云」として引用する理解が、『法事讃疑芥』巻三の記述とほとんど一致するのである。「或人」とは長西のことを指していると考えられるが、その理解に対して良忠は、二つの点から批判を加えており、結果的に長西と良忠の「少善根」に対する理解に相違が生じていることがわかる。

この点について、九品寺流と鎮西義とで立場を異にする二師の間で理解が異なるのは、ある意味当然ともいえる。しかしここで注目すべきなのが、九品寺流において長西の門弟と位置づけられている人師の理解においても、長西の理解とは多くの違いが見られることである。本稿ではその相違を明らかにすることで九品寺流、ひいては法然門下研究における一視座を提供したい。具体的には『阿弥陀経』所説の「少善根」、そしてそれを受けて『法事讃』に説かれる「随縁雑善」の語がどのように理解されていたのかを、各師の『法事讃』註釈書の記述から検討する。

なお、長西には多くの門弟がいたことが諸系図から知られるが、そのなか今回は、長西の直弟子に位置づけられている念空道教（？―一二八七）・阿弥陀房（一二〇〇―一二八七）に加え、孫弟子に位置づけられる性仙導空[5]（生没年不明）を取り上げる。[6]

法然の理解

九品寺流諸師の理解を検討するにあたって、法然の解釈を確認しておこう。『選択集』多善根章では、はじめに『阿弥陀経』「嫌貶開示」と『法事讃』「随縁雑善」の文を引いたのち、私釈において以下のように述べられている。

私云、「不可下以二少善根福徳因縁一得上生二彼国一」者、諸余雑行者難レ生二彼国一。故云二「随縁雑善恐難生」一。「少善根」者対二多善根一之言也。然則雑善是少善根也、念仏是多善根也。

（『聖典全書』一、一三一七頁）

法然は、少善根＝雑行＝雑善とし、多善根＝念仏と理解していることがわかる。ここで確認しておきたいのは、『阿弥陀経』の「少善根」も、『法事讃』の「随縁雑善」も、法然においては同じく雑行と理解されていることである。[7] これを前提に、以下において九品寺流の諸師の「少善根」「随縁雑善」の理解を窺っていくこととする。

長西の理解

まず「少善根」について、長西は先達の理解として諸師の説を引用した後、以下の問答を設けている。

尋云、付二「不可以少善根」等之文一、諸師作二異解一有二何由一歟。

答。於所釈経文分明、諸師全不レ異レ解。文相幽玄異解不同也。而今雖レ説二少善不生一、未レ明二少善之相一。而今案二此文意一有二其二意一。

一次下説二執持名号得生一。故知、指二名号外自余諸善一、云二少善不生一歟。二説二一心不乱即得往生一。故知、設雖二執持名号一非二一心不乱一云二少善不生一歟。有二此道理一故、諸師各異レ解也。

又雖二余行一、一心不乱行之即得往生也。何云二少善不生一歟。又雖二名号一、非二一心不乱一不レ可レ生。何云二即得往生一歟。故知、『経』意、大約二安心厚薄一説二少善不生一也。然則、人師解釈多分約二安心浅深一、釈二少善不生之義一也。（巻三、二一丁左）[8]

ここでは「少善根」として、

(一)…執持名号以外の諸善

(二)…非一心不乱の執持名号

という二義が挙げられている。なお、長西における「執持名号」とは必ずしも称名念仏に限らないことに注意が必要である。[9] よってここでは広い意味での念仏を指して「執持名号」と述べていると考えられるが、注目されるのは、第二義として、念仏であっても一心不乱でなければ「少善根」であるとみなす点である。次に「随縁雑善」については、

疑云、「随縁」之義如何。答。随機縁也。八万正教、共随縁教也。然而今別取二一法一、指二其外一云二随縁一也。

又「雑善」者何等歟。答。念仏外諸行也。此即正雑二行中雑行也。（巻三、二四丁左）

と述べられている。ここでは「随縁雑善」は念仏以外の諸行、すなわち雑行を指すと理解されていることがわかる。

以上、長西の理解の特徴としては、「少善根」に二義を示し、執持名号を必ずしも多善根として取らない点にあるといえる。

長西の門弟における理解

阿弥陀房の理解

次に阿弥陀房の理解について見ていこう。既に指摘されているように、長西の著作群である〈浄土疑芥〉[10]には、所々に「私云…」として述べられる箇所が見られるが、これは阿弥陀房の解釈であると考えられて

いる。[11] そしてその理解は、直前にある長西のものと異なる場合も多く、『法事讃疑芥』における「少善根」や「随縁雑善」の解釈についても、長西とは異なる理解が示されている。先ほど確認した、長西が「少善根」に二義を挙げる文の直後に、以下の記述が見られる。

私云、付「随縁雑善恐難生」等之文、料簡之有四意。謂、一**余行疎雑故、云不生**。如深心下釈「雖可廻向得生衆名疎雑行」也。二**余行散心故、云不生**。如下品上生釈「聞経十二部心散故滅罪軽」等也。此二義於具足三心人、与奪之意且云不生也。又『経』説得生者云「一心不乱」、釈云「専復専」等。此約行相釈得生也。三**余行挙不具三心者、云不生**。如元照『小経疏』云「无正信廻向願求」等也。**四念仏挙不具三心者、云不生**。如智円『小経疏』云「等閑発願散乱称名」也。此二義於不具三心人、以実義云不生也。又『礼讃』序釈不生者、云「若欲捨専修雑業者希得一二……千中无一」等、此約安心、云不生也。**又此四義中、初二義仮令義也、容有義也。後二義真実義也、必然義也。**　（巻三、二一丁左―二二丁右）

この直前で長西は「少善根」を釈しているが、「随縁雑善」についての解釈が述べられていることから、阿弥陀房は「少善根」と「随縁雑善」を重ねて理解していると考えられる。その証として、長西が「随縁雑善」を釈している箇所にもほとんど同文が示されている。[12] ここで、阿弥陀房は不生の理由について四義を挙げている。すなわち、

㈠余行は疎雑なるが故に不生
㈡余行は散心なるが故に不生
㈢余行には不具三心の者を挙げて不生
㈣念仏にも不具三心の者を挙げて不生

である。このうち㈠㈡については仮令・容有の義、㈢㈣の義が真実・必然の義であるとする。ここでの仮令・容有の義が具体的にどういった意なのかは一考の余地があるが、㈢㈣を真実義であるとする点に鑑みると、阿弥陀房は余行・念仏どちらにおいても、**不具三心の者は不生であると理解している**と考えられる。つまり、「不可以少善根」とは、不具三心の行を指しているということになる。上において長西は、念仏であっても一心不乱でなければ、少善根の行であり不生であるとしていた。一方で阿弥陀房は、念仏において不具三心での行を不生であるとしており、相違が見られる。また長西が「随縁雑善」の文を釈した後には、阿弥陀房は以下のように述べている。

私云、（中略）若爾者、釈文「極楽无為涅槃界」者讃嘆所生浄土。「随縁雑善」者約往生修因。謂「雑」者能雑也。「善」**者所雑也。付能雑有三。一三業善行、当『礼讃』四修中无余修下「不雑余業」。二身口衆務悪業、当无間修下「不以余嗔業来間」。三意地妄念、当無間修下「不以貪嗔煩悩来間」也。**「善」者念仏善也。「恐難生」者当「一二三五乃至千中无一」也。意云、『観経』義亘念仏諸行、広釈往生行。『礼讃』一向付三業念仏一行勧進。故厳簡余行悪業等。今付名号一行、云「随縁雑善恐難生」、対執名号之一法故。又『経』云「不乱」、釈「専復専」。若不「専復専」、設執持名号往生不可歟。　（巻三、二五丁左）

ここでは「雑善」の「雑」は能雑、「善」は所雑とされ、所雑の善とは念仏の善のことと理解されている。つまりここでの「雑善」とは、法然や長西のように雑行自体を指していうのではなく、念仏という「善」の修し方を指して「雑」としているのである。具体的には四修のうち、㈠無余修の「不雑余業」、㈡無間修の「不以余嗔業来間」、㈢無間修の

「不以貪嗔煩悩来間」が挙げられている。「少善根」釈の直下では三心の不具による不生の義が示されていたが、ここでは**四修ではない修し方による不生として理解されている**。なお、この直後に前に引用した四義が再び述べられている。

道教の理解

道教撰『法事讃見聞集』の断簡と考えられている『阿弥陀経抄』[13]には以下の記述が見られる。

今経文証二願行二門一。従二「又舎利□衆生生者」一至二「得生彼国」一勧二発願一。従二「舎利弗」一至二「故証此言」一勧二行門一。故分二今文段一以二「少善根」文一属二発願末一。**明知、此言為勧二発願一也**。意云、為二往生極楽一可レ発二菩提願一。**无レ願、人天修因不生也**。非レ可レ訐下成二生雑因一之諸行上。

（「能島」二〇頁、四丁裏）

ここではまず、『阿弥陀経』には願行二門が説かれているとされる。その中「又舎利弗衆生生者」から「得生彼国」までは発願を勧める箇所の末であるから、「少善根」等の文は菩提心の願を発すことを勧める文であると理解している。そして菩提心の願が無ければ**人天の善根**であり不生とする。故に、道教において「少善根」とは人天の善根を意味しており、それはすなわち**無菩提心の行**と考えられていたことがわかる。

続けて道教は、

難云、今師下『讃』云二「随縁雑善恐難生一」。此釈引二上「少善根一」、来云二「随縁雑善一」。是即正雑二行中嫌二雑行一、云二「難生一」。雑行者不レ限二人天修因一、正行外一切諸行。（中略）是等釈惣指二念仏外諸行一云二「少善根一」。**雑善別不レ限二人天善一乎**。

（「能島」二一頁）

と難を立てている。すなわち、『法事讃』「随縁雑善恐難生」とは『阿弥陀経』「少善根」を受けているのだから、「少善根」が人天の善根であれば、「随縁雑善」も人天の善根になってしまう。しかし「雑善」とは雑行のことであり、人天の善根に限られるものではないという難である。それに対しては、

会云、（中略）又下云、「人天少善尚難弁、何況無為証六通」。已上此『讃』意云、衆生流転之間人天少善根尚難レ弁。故多受二三途苦一。況生二無為浄土一証二六通一乎。是則引二経文「少善根福徳因縁」一、来云三人受二少善一。引下経文七日一心不乱行生二彼国一□□益上、来云二「何況無為」一也。

（「能島」二〇頁）

と答えている。『法事讃』の「人天少善尚難弁、何況無為証六通」の文言について、「人天少善」は『阿弥陀経』「少善根福徳因縁」に対応し、「何況無為」は一心不乱の得生に対応するのだとして会通をはかっている。そして続けて、

准二此釈一「随縁雑善」言、可レ謂二人□□根一。

（「能島」二一頁）

と結論づけている。ここでは「人□□根」と二字の湮滅があるものの、ここまでの議論に鑑みれば「人天善根」とあったことが推測される。すなわち道教においては、「少善根」も「随縁雑善」も共に**人天への生因となる善根**のことを意味していることがわかる。

導空の理解

導空撰『法事讃下管見鈔』では、『法事讃疑芥』にも引用されている元照『阿弥陀経疏』「正信廻向願求」の文が引用された後、以下のように述べられている。

解曰、是无菩提心諸善釈二「少善根一」也。今師下釈云二「人天少

善」斯謂也。故『智論』云、「若世間中諸衆生、業因縁故如循還。福徳縁故生天上、雑業因縁故人中。」已上 无菩提心善根、是雑業也、雑善也、雑行也。発菩提心菩提、是大善也、正行也、正業也。応知。　（四四丁左―四五丁右）

ここでは、无菩提心の行がすなわち少善根であると述べられており、**菩提心の有無によって少善根を意味づけている**。また「随縁雑善」については、

「随縁雑善恐難生」者、是上所簡之少善根也。不発菩提心諸善故云「随縁雑善」。　（五五丁右）

とあり、すなわち、「少善根」と同様に、菩提心の無い諸善を指して「随縁雑善」と理解していることが窺える。

小結

以上、本稿では『法事讃疑芥』巻三の「少善根」「随縁雑善」の理解に着目し、それを九品寺流の諸師に広げて検討を加えた。まとめると次表のようになる。

	少善根	随縁雑善
法然	称名念仏以外の雑行	称名念仏以外の雑行
長西	(一)念仏以外の雑行 (二)非一心不乱の念仏	念仏以外の雑行
阿弥陀房	不具三心の行	(一)四修でない念仏 (二)不具三心の行
道教	人天の善根（無菩提心の行）	人天の善根
導空	無菩提心の行	無菩提心の行

一言に九品寺流といっても、その内実はそれぞれが異なった理解をしていることがわかる。その一方、法然と比較した際には、九品寺流全体としての特徴を見ることができる。まず法然は「少善根」「随縁雑善」をともに雑行、すなわち行そのものを指す語として定義する。それに対し、九品寺流の諸師は、行の修し方や、三心あるいは菩提心の有無に関連させて両者を定義しており、基本的に行そのものを指して「少善根」あるいは「随縁雑善」とはしないのである。

最後に、九品寺流という枠組みそのものについての私見を述べておきたい。筆者は以前、長西・阿弥陀房・道教の三師について、第十八願の「十念」理解の相違を指摘したことがある。[14] それに加え、本稿で扱った「少善根」「随縁雑善」釈においてもこれだけ相違が見られることに鑑みると、そもそも彼ら自身に九品寺流という一門流としての意識があったのか、という点も改めて検討される必要があるように思われる。特に阿弥陀房については、「私云」として、長西の理解を批判する記述も多く見られ、本人に長西の門弟としての意識があったか疑わしい部分があると考えている。紙数の都合から、本稿では詳細な検討がかなわなかったが、今後の課題としたい。

付記

小論は、公益財団法人三菱財団の第四八回（二〇一九年度）人文科学研究助成による成果の一部である。また、小論の執筆にあたり、金沢文庫御当局には格別のご高配を賜りました。衷心より感謝申しあげます。

『法事讃疑芥』巻三翻刻

（佐竹・赤松・西村・井上）

【凡例】

①本翻刻は、称名寺聖教『法事讃光明抄』の巻三（94函4―3）を翻刻したものである。

②漢字は新字の通行体に統一し、略字（合字）は正字に戻して翻刻した。

③各丁数は〈〉で括って示し、行取りは原本に準じて行頭に行数を示した。

④訓点・合符は原本に付されている通り翻刻したが、スペースに関しては必ずしも原本にはよらず、原則として見出しの前後および問の直前、科段等に適宜私的に付した。ただし、何れの場合も行頭には付さなかった。

⑤補記や訂記は本文に反映して翻刻した。

⑥翻刻に使用した各種記号が示す意味は次の通りである。

・「□」→湮滅

・「……」→本文に付された省略符合箇所

⑦引用文については、管見の範囲で確認し得た出典を（　）内に割書で示した。

⑧写誤や脱字など、意味が通らない箇所が散見されるが、本翻刻では史料性に重点を置き、明らかな誤りと判断できた場合でも校訂はしなかった。

⑨特に必要な情報を示す場合、脚註に記した。

〈一丁右〉

01捨彼荘厳乃至出閻浮等事

02疑云一切諸仏皆捨无勝土出閻浮歟答不爾今□…□

03或現真形无利物等事　疑云現真形何无利物歟□…□

04又或本云而利物何為正歟　有流見解乃至四千門□…□

05浄土者八万四千門摂歟答爾也　門々不同乃至還是□…□

06非別之義如何答於法常同常別二義具足謂如来内証常平

07等因諸法非別対機随情常差別因諸法各別也是一法二義也

08常同常別法界法爾古今道理之謂也守護章（巻中之下、『大正蔵』巻七四・二〇四頁上）云若无平

等之差別

09□順仏法悪差別若无差別之平等不順仏法悪平等又同者為

10□□不二之義為種類相似之義答今種類相似義歟但宗々意異也

11□…□唯心云宗天台仏因仏果云宗此等意可云一体義也律蔵戒品

12□…□摩為宗修善此一教立宗也此宗一切教説止悪修善此教

〈一丁左〉

01□…□意可云相似□義也事相教故天台菩薩戒疏（巻上、『大正蔵』巻四〇・五八七頁上）引

十二門論云

02□…□多止行収尽諸悪莫作即是戒門修善奉行即是勧門

03□□花厳唯心為宗与法相唯識為宗有何別歟答花厳第九識分歟

04法相第八識分也　同故即是乃至是慈悲心等事　疑云同故何為如来致別

05故何為慈悲歟答如来悟故悲同凡夫迷故見別故同約仏内証別

06約外用慈悲也流転前同為本差為後還滅前差為本同為後也

07又致者何義歟答宗旨宗致義也　又浄土門者為如来致為慈悲心歟

08答慈悲心也総聖道浄土対機随情教皆慈悲心也□…□

09何文意歟答依如是我聞歟口云総標一経大意歟□…□

10高摂下讃云下摂高讃云者如先之料簡也已下准□…□

11釈迦如来乃至度衆生等事　疑云卅九年度生之義依□…□
12卅成道義一者大論説也法聡観経記（『浄全』巻五・三七頁上）云十九出家卅□…□

〈二丁右〉

01涅槃文ミタ経新疏云仁岳初部教者旧云此経是仏成□…□
02五会讃（巻本、『大正蔵』巻四七・四七九頁上）云成仏四十余九年彼国経行遊五天文□…□
03経云十九踰城捨国王位三十成道教化衆生文釈竹□…□
04説相十九踰城三十成道不説爾前故云我少文菩提□…□
05八年作嬰婉七年作童子四年学子明十年受五□…□
06三十五成道四十五年中教化諸衆生文金剛般若疏（『大正蔵』巻三・七六頁上）云若依光讃如来
07十九出家三十成道文疏記二（『法華文句記』巻二・『大正蔵』巻三四・一七八頁下）云若仏十九出家乃成廿四成道若卅成道
08乃成廿五出家不同見別不須和会文五百問論妙楽（巻下、『卍続蔵』巻五六・六五六頁下）仏生時節涅槃住
09処身相説法諸部不同乃由見別不須定判文大論三（『大正蔵』巻二五・八〇頁下）云我年始十九
10出家学仏道我成道已来已過五歳文教時浄土論（『教時諍』巻七五・三五七頁下、『大正蔵』）云八月入胎二月入
11滅若加余年成八十二五以四月出生二月涅槃若取満年乃七十九若
12□□同是八十年文天台宗意十九出家卅成道八十涅槃也

〈二丁左〉

01□魔外道尽帰宗等事　疑云一代之間不受仏化一者多何云尽帰宗歟
02□約多分一也　或住或来皆尽益等事　疑云住与来指誰人事歟
03□指仏四威儀利益也来者行義也　或震大地……信未深等事　三学
04中説戒時不現瑞為仏弟子故説□応時現瑞非制戒教化門故也
05三途永絶断追尽等事　疑云追尋者何等歟答生死輪廻追過去一尋ツキ
06云現在一如此相続等也　或自説法教相勧等事　疑云誰人自説歟答如
07来无問自説也　私云只是五種説相対シテ云仏自説也
08法林即是ミタ国等事　疑云法林者可指一切法門何限□…□
09今総属別名也浄土礼文云勤礼ミタ仏国帰極楽林□…□
10逍遥快楽不相侵等事　疑云不相侵ト者其義如何□…□
11高接下讃云下接高讃云者如先之料簡也　如来説□…□
12尋云元无二者意如何答如来一音含万法一云无二一也又□…□

〈三丁右〉

01摩経上（『維摩経』巻一・『大正蔵』巻一四・五三七頁下―五三八頁上）云大聖法王衆所帰浄心歓仏靡不欣各見□…□
02神力不共法仏以一音演説法衆生随所解普□…□
03則神力不共法仏以一音演説法或有恐畏或歓□…□
04断疑斯則神力不共法文起信論（『大正蔵』巻三二・五七五頁下）云円音一音異類□…□
05縁一音演説其体何物歟答指其言一不可云何物歟□…□
06又唯依機不同一教主不異説者能化還テ有作所化之辺如何答此教主
07大小乗トモ不分別一機方ノヨリ分別ハ大乗小乗一似タリ教主愚ニ所化賢ナルニ一故致此
08疑一也会之一仏不共徳ニシテ以一音小機令聞小乗声大機令聞大乗声一給也
09例如天竺国王於万事一云中セムタラト上云々　尋云見仏聞法者現仏出世説法以我一
10心咸見影像歟答宗々各別也不可一准一付有四句一謂唯本无影此小乗意
11唯影无本此无性師等意也破相三論也亦本亦影此依法乃至□大
12論意也法相大乗也能人為影此龍軍等意也自如来蔵一生也法性大乗也

〈三丁左〉

01又一音異解之義依何経論歟答如前云維摩経上起信論等也又花厳天台等也
02不留シテ残結セヲ一証ス生空ヲ一等事　疑云不留残結者文点並意如何答文点如付

03意□結者正使也不留残正使也有云羅漢不断習気一故可読三不留二残結一
也
04又生空者何等歟答人空也　或服外道一滅魔蹤一等事　疑云服者
文点
05如何答如上有云可云伏一借音今云服一也有云受也　又摩蹤者何等歟答
継摩
06蹤一値仏一滅之二云也　悲心普益絶无功等事　疑云絶无功者何等歟答无
07利他之功二云也　二万劫尽乃至発大乗等事　疑云二万劫廻心者説□…□
08答説羅漢廻向一歟此釈大乗意也　又二万劫等之義依何経□…□
09涅槃経等也　又廻心者必依諸仏教化歟答爾也心生自□…□
10今釈爾也正法花（巻四、九二頁下）云臨滅度時仏在前立勧発无上正□…□
11身滅智之羅漢一也下接高讃云高接下讃云者如□…□
12或現上好荘厳相等事　疑云荘厳相等者何等歟□…□

〈四丁右〉

01好称美語也名所依也即菩薩義正報也有相縁覚□…□
02現一乗形一益衆生一也高接下讃云下接高云者□…□
03与仏声聞乃至浄土門等事　疑云可云仏与声聞何云告仏声聞等□…□
04可読也　又或本云仏与声聞等何為正歟答仏与声聞可為□…□
05所化何云開顕浄土門歟答助如来化儀一応化辺声聞菩薩□…□
06仏徳二云開顕等一也　人天大衆皆来集等事　疑云此文者釈経何文歟□
□
07天人衆倶等文也　誓到ミタ……報慈恩等事　尋云今誓到等者勧発菩
08提心歟答不爾此釈人天大衆聞法解悟念レ報釈尊恩一之意楽一也非勧
09進滅後衆生一也勧進滅後凡夫一文応当発願々生彼国等是也
10高接下讃云下接高讃云者如先之料簡此可唱二返也如上巻終一
11第二正宗分
12爾時仏告長老舎利弗等事　尋云同聞衆多中殊告命舎利弗許一

〈四丁左〉

01有何意歟答天台（『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇六頁中―下）云此経今章対舎利弗余経皆有請至
此経无問自説
02十二部中亦不具足一无両種偈一其余諸部亦不全有不対菩薩告声聞者
03適化无方　欲令凡夫小乗厭此欣彼也測云初明仏告舎利弗後明正宗
04所説法門此即第一告舎利弗於諸衆中智恵第一是故如来告舎利弗
05如仏成論議文一云問説此経時亦有菩薩何故不告菩薩唯告声聞答如法
06花説有五種義一為諸声聞所応事故二為諸声聞廻心趣大菩提故三護
07諸声聞恐怯弱故四為令余人善思念故五為諸声聞不□所作已□□
08故案云彼論意者此法花経説一乗為摂声聞入於大乗□…□
09声聞所作故告声聞以大菩薩古信作仏非始入故此経亦□…□
10人為生浄土非始為菩薩故但告声聞余四義唯此同有□…□
11弗不告余声聞答彼論云随深智恵如来相応故安□…□
12義随順□意故名相応……智度論云何故告舎利□…□

〈五丁右〉

01恵最第一如仏偈説一切衆生智唯除仏世尊分比舎利弗智恵及□…□
02於十六分中猶尚不及一年始八歳誦十八部経又云十六年以□…□
03十八大経是十六歳也作仏弟子案云此无不違一以其八□…□
04是外典十八部類大経亦爾由是等義偏告鷲子文円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五四頁上）云□
…□
05天一而告中声聞上者无令小乗初心欣楽求生廻小入大一故　尋云今□…□
06経歟答信（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六八三頁中）云問教有十二一此経幾具　答略説道品念
仏方法随業往生
07及仏依正一如是等説名修多羅一説不退転阿耨菩提往生極楽一是等受記
08一三経始終无問自説十方恒沙仏不可計補処須臾供諸仏寿命无量劫

09及此一経皆是方広此上三部唯是大乗宝樹音声譬如百千妓楽倶作即
10是譬喩天雨妙花水鳥法音奇異荘厳是未曾有彼无悪趣何有
11衆鳥但是仏化如是論議義准如此余五不具凡諸経中不必十二文
12観云法華経□无有人□而自説者猶示如来大悲純至機動即説不待

〈五丁左〉

01他請肇云真友不待□如慈母之超嬰児已上　従是西方過十万億仏土
02有世界曰極楽等事　尋云所云十万億仏土者浄穢二土中何歟答未勘
03有云経云従是西方過十万億仏土云従是□之言指此娑婆也爾者
　十万億仏
04土者可云穢土云々又安楽集上（『大正蔵』巻四七・九頁下―一〇頁上）云極楽浄土初門此文
　十万億仏土云穢土
05意歟尚々可尋之云々異訳称讃経（『大正蔵』巻一・三四八頁下）云於是西方去此世界過
　百千倶
06胝那庾多仏土有仏世界名曰極楽文又十住断結経（巻六、『大正蔵』巻一〇・九九九頁下）云是時
　世尊如来会
07者心中所念而告之曰西方去此无数仏土有仏名无量寿文又観世□
08菩薩往生浄土本縁経（『卍続蔵』巻一・三六二頁上）云従此西方過二十恒河沙仏土有□…
　□
09又天台観経疏（『大正蔵』巻三七・一九頁中）云此去不遠者安楽国土去此十万億仏刹□…
　□
10何云不遠解云以仏力故欲見即是又光中現土顕於仏□…□
11遠也文玄一小経疏引之大論（巻五〇、『大正蔵』巻三五・四一八頁下）云三千大千国土名一世界一
　時起□…□
12此世界十方如恒河沙名一仏世界如是一仏世界数如恒沙等亦一仏世□…
　□

〈六丁右〉

01海如是仏世界海数如十方恒沙名仏世種々如是世界種十方无量是□
02一仏世界文　有云天台依此論意歟答肇云次釈遠近観音授□…□
03百千仏刹清浄覚経過十万須弥山国无量寿経云去□…□
04悟雖似殊大数相似文有云上所引文人以不同也経々異□…□
05尋云自爾時仏告至今現在説法依正二報総標也謂有世界名曰極□□
06総標依報也号アミタ今現在説法者総標正報也自舎利弗彼土何故名
07為極楽至但受諸楽故名極楽者問答依報帰名也諸師解釈亦以爾也
08而今曰爾時仏告長老舎利弗至但受諸楽故名極楽取総標文段有何
09意歟答此不審実以爾也但見今解釈次第自又舎利弗極楽国土七重
10欄楯至舎利弗其仏国土成就如是功徳荘厳一向説依報得名自舎利弗
11於汝意云何彼仏何故至舎利弗彼仏功徳国土成就如是功徳荘厳一
12向説正報得名也而自舎利弗彼土何故至但受諸楽故□極楽付正報

〈六丁左〉

01得益説依報得名而此廿七字亘依正両兼故取依正総標文段也故次下
02釈（『法事讃』巻下、『大正蔵』巻四七・四三二頁中）云衆人天寿命長仏号ミタ常説法極楽衆生障自言衆
　等廻心願生
03彼文　无有衆苦乃至故名極楽等事　疑云十方浄土同皆无苦安楽也何
04中有極楽之称歟答浄土私記云問十方浄土各々有如此厳妙楽何不名極
05楽耶答案此義有二種一十方浄土雖有快楽或賢聖受楽凡夫不楽或
06有男楽无女楽或有断或人楽不断或人不楽或有善□人楽悪業人不楽故
　不得楽
07名今極楽皆楽故名極楽歟二花厳経疏云極楽有花蔵世界中若依
08此義者花蔵即是極楽々々即花蔵々々之中无有諸苦故名極楽歟文円
　（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五四頁中）云□□
09論苦楽者五濁重故有衆受諸楽者同名也文　一切仏土乃至□…□
10疑云乱想凡夫難生浄土者雖勧西方有何詮歟答今釈意□…□

11一方々々々為全心専一云也随願往生経意也ミタ経西資鈔云問知□
…□
12皆聖師也而各偏讃一方何故子之不許耶対曰聖師偏讃意別偏好□

〈七丁右〉

01心決定耳文通讃疏第二（巻中、『大正蔵』巻三七・三三八頁上）云問十方仏国快楽皆同何故偏指
西方勧□
02彼答良為凡夫業重処々生貪若不偏指一方即繫心専注所□…□
03云衆生処々著引之令得出又西方浄土至勝願強偏勧□…□
04所偏指也文慈恩（『小経疏』巻三七・三一二頁下、『大正蔵』）云問十方更不无浄土何以独讃西方答□
…□
05恐衆生境繁心乱故随願往生経云此処衆生信向者少□□者□□□
06定故令衆生専心有在故偏讃也又若言十方皆有浄土衆生之心則便慢
07緩若唯一処心即慇重文法花疏記十妙（『法華文句記』巻一〇下、『大正蔵』巻三四・三五五頁中）問同居類多何
必極楽答教説多
08故由物機故是摂生故令専注故宿縁厚故約多分故文高接下讃云下
09接高讃云者如先之料簡一可唱二返一也　極楽国土乃至七重行樹等事　疑云
欄
10楯羅網等皆以七重為分量有何由歟答必云陽数一云三七九一也三生長数
也
11七成就数也九至極数也今旦取成就一云七一歟元暁（『小経疏』巻三七・三四九頁上、『大正蔵』）云七
重欄楯羅網行
12樹者是荘厳徳成就□　又七重者為横重為竪重歟答竪□歟行樹横□

〈七丁左〉

01故念仏三昧経等多七重横説也元照（『小経義疏』巻三七・三五九頁下、『大正蔵』）云言行樹者周廻七
重一々樹高八
02千由旬行□相当不参差故其樹枝葉已下七層皆垂珠網状同仏塔文
03希深人師名也小経解云欄横也楯竪也文　尋云殊以一七重説之有何故歟答一云
処々皆
04有七宝樹等皆以七数者世間偏重一珍亦貴七世故又為顕示彼国衆生具足
05七浄七覚等故此皆在地名地功徳文通賛二（巻中、『大正蔵』巻三七・三三九頁上）云問欄楯羅網
行樹何故名有七
06重更无増減答表生帰彼国得七覚支故身口七支无諸過故有七聖財故文
07諸師如此云々智円疏（『小経疏』巻三七・三五四頁中、『大正蔵』）云欄楯者欄檻也縦曰欄横曰楯文通賛
二（巻中、『大正蔵』巻三七・三三八頁下）云横曰楯竪曰
08楯欄檻也文又此中有羅網欄楯等荘厳何為正一歟答以所□厳樹□…□
09皆是四宝周匝囲繞等事　疑云大経等云七宝樹今云四宝□…□
10説不同也浄名経（『維摩経』巻中、『大正蔵』巻一四・五四九頁下意）云无漏法林樹敷以七覚花解脱智□…
□
11四宝者測云一者金二者銀三者瑠璃四者頗梨文　又周匝囲繞□…□
12論之一歟答付法荘厳四宝一也　万事家生皆捨離等事　疑云此句者□

〈八丁右〉

01令捨家生等歟答爾也　又家生者何等歟答家中資財也　又此等義経中
02不見如何答経既云説欣求之辺一知厭離一必可有一也又花厳経巻第四十普
賢
03願行品（『般若訳』巻一〇・八四六頁下、『大正蔵』）云又復是人命終最後刹那一切諸根散壊一切親属
悉皆捨離一切
04威勢悉皆退失輔相大臣宮城内外象馬車乗珍宝伏蔵如是无復□□
05唯此願王不相捨離於一切時引導其前一刹那中即得往生極楽世□□
06已即見アミタ仏文高接下讃云下接高讃云者如先之料簡也
07珠羅宝網百千重等事　疑云羅与網有何別答羅網細簾也　无衰无反堪
08然常事　疑云他受用依正者当因移果易何云无衰等歟答今対穢土也
09又湛然常与凝然常同異如何答異也凝然者名法身真如理一湛然者相続

永

10不絶二云也高接下讃云下接高讃云者如先之料簡也可唱二反也

11四辺階道……上有楼閣等事　疑云道之義如何答通池一階云道一也　私云不爾階

12与道也　又上有楼□□□為池上為岸上歟答岸上也元暁（元照『小経義疏』、『蔵』巻三七・三五九頁下）云初明池水畔（ホトリ）

〈八丁左〉

01階□三階上（ホトリ）楼閣文略記（『大正蔵』巻五七・六七五頁中）云言上有等者池下地高（ハシ）地有楼閣一故云上也文

02和尚釈（『法事讃』巻下、『大正蔵』巻四七・四三二頁下）云岸上重楼一　又今所云楼閣是宝地荘厳歟答今一段説池事一歟爾

03□□荘厳也　私云不爾各別説之也　有七宝池等事　疑云欄楯等皆四

04宝為能荘厳一今何以七宝為能荘厳歟答説辺々一也　八功徳水等事　疑云其

05八相如何答成実論（巻三、『大正蔵』巻三二・二六一頁中―下意）云一軽二冷三耎是触也四美是味五清浄是色也

06六不臭是香七飲以調適八飲已无患是水之用也文正法念経（巻六九、『大正蔵』巻一七・四〇八頁上中）云一具六

07味二清浄三香潔四除濁五涼冷六飲已无厭七无塵垢八飲之无患文

08称讃浄土経（『大正蔵』巻一二・三四八頁下）云又舎利子極楽世界浄仏土中処々皆有七妙宝池□□

09水弥満其中何等名為八功徳水一者証浄二者清冷三者甘美四者軽□

10五者潤沢六者安七者飲時除飢渇等无量過患八者飲已定能長養

11諸根四大増益種々殊勝善根多福衆生常楽受用文倶舎頌疏十一（『大正蔵』巻四一・八七九頁下）云

12一甘二冷三耎四軽五清浄六不臭七飲時不損喉八飲已不傷腹文

〈九丁右〉

01是无熱池□事大般若三百九十九（『大正蔵』巻六・一〇六五頁下）云城外周匝七重宝塹八功徳水

02弥満其中冷燗調和清和澄皎鏡文此説香城也　尋云瑠璃玻璃者梵

03漢中何歟答照（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五九頁下）云瑠璃梵語此翻不遠去波羅奈城不遠有山出此宝

04故玻璃亦云頗胝迦此翻水玉或云水精硨渠下並花言如車之礫々□

05車輞赤真珠者仏地論云赤虫所出珠体赤故碼碯応法師云此□□

06赤如馬脳焉文円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五四頁中）云亦以金銀下列七宝也瑠璃具云吠琉璃一此云不遠一

07如照字体本作流離一後人従玉一頗梨正云窣坡致迦一其状少似此方水

08精一然有赤一有白者一車渠梵云牟婆洛揭拉婆一此云青白色宝一尚書大

09伝曰大貝如大車之渠□謂車渠赤珠者（輞歟）如照智論云真珠出魚腹中竹

10中蛇脳不必唯生蚌胎也瑪瑙梵云摩婆羅伽隷（祢イ）此云瑪脳一此宝色如馬

11脳一目以為名新本云阿湿摩揭拉一此云蔵杵一或翻胎蔵一取此宝堅実為名一

12字体作馬脳一後人加石一或王　池中蓮花等事　疑云□□報分量者

〈九丁左〉

01花量何指少歟答分喩也　尋云以車輪喩形之辺一歟答□也平等経□

02形如車輪一文超世経（巻五、『大正蔵』巻一・三三七頁上）説毘摩質タラ阿修羅王宮云池中蓮花円如車輪文

03此等釈喩形貌也称讃経（『大正蔵』巻一二・三四九頁上）云是諸池中常有種々雑色蓮花量如車

04輪文希深（ク）義解云……大本経云池中蓮花或一由旬乃至百千由旬則知大小不

05一文肇公ミタ経義疏云大如車輪次釈分量此経拠小者説謂如車輪観経

06清浄覚経約大者或廿里乃至六百万里随念大小遂无定文此等釈分量一也

07慈恩同之円（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三五四頁下）二云通示形量一如車輪故照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁上）
　云若准観経一々池中有六十
08億七宝蓮花一々蓮花団円正等十二由旬既言七宝非止四色十二由旬□
09止車輪然車有大小難為定准此間極大不過数尺可依輪王車輪□□
10十住婆娑云転輪聖王千輪金輪種々珍宝荘厳其輞瑠璃為轂周円
11十五里准此未及半由旬亦約小者耳所以二経不同者慈恩云花有大小彼拠
12極大此約最小□准大本池中蓮花或一由旬乃至由旬則知大小不一文

〈一〇丁右〉

01尋云細分（シテ）経文一以七重等一為（ハ）別（ノ）文段一如観経（ノ）説相一七重等者宝樹観也
　有七
02宝池者宝池観也四辺階道者宝池観也上有楼閣等者宝楼観也若
03爾何以此等之文一不為別段一歟答有云経文（ニ）七重已下（ヲハテ）説故名極楽一答（フ）依
　報
04得名之由一有七宝池已下（ヲハ）経文（ニ）問雑（シテ）不説故名極楽一故歟有云只是随宜
　□也
05岸上重楼百万行等事　疑云重者横竪二重中何歟答竪也下万行一云□□
06口云横也下万行者挙数也　各坐一箇聴真常等事　疑云箇（スチ）之訓如何答
07如上見忠算法花釈一也有云箇（ケトキ）
08高接下讃云下接高讃云者如先之料簡也可唱二返也　又舎利弗乃（至）飯食経
09行等事　疑云此一段中説天楽金地雨花供以等之相何為正歟答供仏為
　正一也
10尋云観経云瑠璃為地一今経云黄金為地相違如何答於衆宝合成地一且（ク）説
　辺々一也
11信（『小経義記』、『大正蔵』巻五七・六七六頁上）二云問観経云瑠璃地一何故今云黄金一解曰思益説未来
　須弥灯王仏国土一云閻
12浮金瑠璃為地一准彼一思之一黄金不映徹一瑠璃（ハ）非金色一彼土金色亦応映徹
一故

〈一〇丁左〉

01倶得□又観経云瑠璃地上以黄金縄雑厠間錯（云々）二宝合成故亦倶名文
02私云大経上（『大正蔵』巻一二・二七〇頁上意）云七宝合成為地一文可合□一也永観（ハ）難恵心之義
一也　又極楽无日月
03以何□別六時歟答慈恩述讃云問彼現无日月何有六時之別答約彼土実
04无六時亦対此方示其軌判故言六時若依別経亦以花開合為六時也文
05大集経第五（『大正蔵』巻一三・一二頁上）二云爾時有仏号曰得一切願威徳王如来……彼世
　界名曰現无量諸仏
06刹土彼世界中不似日月光明以諸灯樹及摩尼而以照明昼夜唯以宝
07花開合知有時節文悲花経亦意同也照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁中）二云彼国光明常照
　既无日月
08□无昼夜順此方機且言六時准大本（大イ）中彼以蓮開鳥鳴為暁合鳥□
09為夜文龍興観経記云无女人者如大悲経仏告窮日光明菩薩東南方□…□
10億百千仏土有世界名曰蓮花仏告蓮花尊諸菩薩以禅三昧為食香食光
11有栖食亦无女人日月昼夜等至猶如西方安楽世界以合花鳥栖而知時節文
12又曼陀羅花者何翻之歟答肇云計雨花意為厳意為厳飾其花覆地

〈一一丁右〉

01厚四寸随色次□分布而不雑乱光沢香耎足蹈上行裁（践歟）下四寸挙足還
02起曼陀羅者此云花言如意花曼殊沙名柔耎文台（『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇六頁下）二云至妙
　名曼陀羅色
03々妙无比香気芬馥文恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三二〇頁下）二云曼陀羅者此云赤円花亦言如意
　花正法花名
04適意花大適意花若曼殊沙名為柔耎花即大品経中（ニハ）帝釈両曼陀羅花
05供養般若波羅蜜須菩提言此花従心樹生即如心所欲（如イ本）而雨也又釈者花
06所生従其心生然花貌終是赤円文照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁中）言曼陀羅此翻適意

言其美也
07又翻白花取色也文観云法花疏云曼陀羅花者何西明云天花名也中国亦
08有之其似赤而黄如青而紫如銀而紅已問称讃経説常雨種々上妙天花今
09何唯言曼陀羅今説一花是即略也理実彼土可雨衆花故文円（巻三七・三五四頁下、『大正蔵』）
云翻適意
10□□悦人意一故其色白故或翻為白花一也　又或本云而雨曼陀羅花何為
正一歟
11答雨天為正也唐本皆爾也　又衣ハナコ-裓者何等歟答国王太子入花一進スル物
也
12肇□衣裓者謂衣衿□文恩同之天台義記（『小経義記』巻三七・三〇六頁下、『大正蔵』）二云衣裓是盛花
器形如□蓋
〈一一丁左〉
01而有一足□擎供養文元暁（『小経疏』巻三七・三六〇頁中、『大正蔵』）二云衣裓真諦云外国盛花器也文
尋云可供養
02仏何限十万億一歟答只是随宜也故大経廿三願（『大経』巻上、『大正蔵』巻一二・二六八頁中）二云国中
菩薩承仏神力供養諸仏
03一食之頃不能遍至无数无量那由他諸仏国文又卅二願（『大経』巻上、『大正蔵』巻一二・二六九頁上）
云一発意頃供養
04无量不可思議諸仏世尊文又下（『大経』巻下、『大正蔵』巻一二・二七三頁下）養承仏神力一食之頃往
生諸十方无量
05世界恭敬供養諸仏世尊文有云案十住毘婆意一今経ハ約新往者一歟云常以
06清旦一云飯食経行等一故旧住菩薩ハ日々六時ニ供養諸仏一也一云問両巻経
……往詣十
07方……云何今説十万億仏答彼経既言菩薩拠勝機説此経約下機故无相
違文
08尋云即以食時還到本国ニ一食時者何時歟同（慈恩『小経疏』巻三七・三二頁上、『大正蔵』）二云問言食時
者為同此処巳午之
09際為別時也答雖短長不等食時故亦是同文欽云食時中言前者此二義如
10金剛般若経云食時著衣持鉢此乃人家食熟之時当辰巳間也二今云食時飯
11食正是諸仏受食之時也或曰毘羅三昧経云諸仏並日中食如何在中前答
12為名所使来遍養也一若正中時自属時非時不合食故須在中前方令
〈一二丁右〉
01進噉文　飯食等事　仁岳疏下云問食以資身為義浄土之中為是ハ何食答
02実報土禅悦為味若反化土段食資身今謂不能拠往生論偈云愛食文
03又軽行之相如何答両方ニ往還也慈恩疏（『小経疏』巻三七・三二頁上、『大正蔵』）二云経行者謂旋遶
思惟文大日ニハ云経
04行処ト一築壇テ一食後ニ経行也為適悦一也四分律（巻五九・一〇〇五頁中、『大正蔵』巻）二云経行有五
益二堪遠行二能
05思惟三少病四消食五得定久住文釈迦方誌シニ（巻上・九五七頁下、『大正蔵』巻）二云仏経行石ノ基
長五十歩高
06七尺足之所履皆蓮花文云々南海伝第三（四・二二一頁中、『大正蔵』巻五）云義浄五天之地道俗多
作経行一
07真至直来唯遵一路一随時一適性カナヘニ一勿居□レ用処スルコト一則癒イヤス病一二能銷食一
謂ク中
08日映ナイ即行時也或可出寺一長行一或於廊下一徐行ヨ若不為ハサ之一身多病苦一
……
09又云仏経行基濶ヒロサ可二時一長十四五肘一余累カサネヲカハラハヲ磚一作也上ニ以石一作蓮花一
開敷勢ヲ一
10高二寸濶一尺許有十四五表聖足跡一也文弘決二一（六・一八一頁中、『大正蔵』巻四）云三千威儀
経云経行有五処一
11一閑処二戸前三講堂四塔下五閣下文　種云随心皆称意等事　疑云種々
何等歟

12答□養諸仏供養也称讃経云供養无数仏也　又心与意有何別一歟答

〈一二丁左〉

01同也□心意識体一俱舎（巻四、『大正蔵』巻二九・二一頁下）頌心々所有依故但執起名心思量

為意了別名識一云々

02高接下讃云下接高讃云者料簡可唱二返也　復次舎利弗等事　疑云此一

段置

03復次之言有何要歟答无別之由一只文段始故或云又一或云復一也　尋云鳥

者

04畜生也浄土既无三悪趣何云常有種々奇妙雑色之辺哉答肇云正法念経

05云四天已上无実畜生諸天福力為厳処所亦有禽獣然非実報何況浄□

06而得有之言諸鳥者ミタ所化作文恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三二頁中）云言諸鳥者或ミタ所

化或宝光状似之一文

07一云及有三謂自身相応罪身相応若身口業通於三化若意業但是初二若

令

08有心即他身摂故広如仏地論然即此鳥他身相応文恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三三頁下）云人

疑云此鳥既非

09実報当是何身答曰是彼仏化作或宝光明化作意欲令其助宣正法故文

10白鵠孔雀乃至共命鳥等事　疑云白鵠者何等歟答鶴類也有云有云鵠一極小

11辺一射彼一云射鵠云義一也人広知大小事一亦云射鵠之義一也恩

（天台『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇六頁下）云三雑色鳥

12白鶴孔雀鸚鵡鴝鵒亦如此歟聞水禽之類文通讃疏（巻中、『大正蔵』巻三七・三四〇頁中）云白鶴者

丹

〈一三丁右〉

01朱作頂霜雪為毛一鳴之即声振九皐舞之則雅和八節逈異諸鳥故云

02白鶴文玄一記云鵠音好屋脚長為鶴脚短為鵠欽云白鶴者道家有相鶴経一曰体尚潔

03故其色白声聞天故其項赤食於水故其啄（クチハシ）長軒於前一故後指短棲於

04陸故一足高而尾凋（ミシカン）即短也翔於雲一故毛豊而肉疎寿一千年円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五頁下）云

白鶴者

05相鶴経曰如欽毛豊而肉疎大喉（ハ）以吐故一（フルキヲ）修頸以納新故生天寿不可量

06周欽記歟（戒度『聞持記』、『浄全』巻五・六七三頁下―六七四頁上）孔雀大好翅鳥聞雷則舞帰霧則鳴巣万尋之

高食再熟之稲

07鸚武者山海経云黄山有鳥如鴞類揺切青羽赤喙許観切背人舌能名曰鸚武

08瑛注経云赤有白色者文　又舎利（カントリ）者翻名如何答光記（『倶舎論記』巻一、『大正蔵』巻四一・八頁中）翻百

舌鳥一或翻鴛（カントリ）

09通讃（巻中、『大正蔵』巻三七・三四〇頁下）云舎利者梵語此云鴛鴦（サキ）也……而万里飛文又（『通賛疏』巻中、『大正蔵』巻三七・三四〇頁下）云迦陵頻伽此云妙音文

10元照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁中）云此云妙声文光記（『倶舎論記』巻一、『大正蔵』巻四一・八頁中）云舎利鳥者百

舌鳥也有云舎利鳥者鶯也云々

11答肇云仏荘厳不思議経云舎利者此云鸚鵡鳥文恩同之照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁中）

云舎利此云春鶯

12或云鴛路文観云有疏云舎利者此云鸚鴝鳥……光記云舎利鳥者舌身也

〈一三丁左〉

01有云□利鳥者鶯也文迦陵頻伽者肇云智度論云此无正名号好音鳥此

02鳥雖未出声其音已勝衆鳥何況出声文恩同之一云迦陵頻伽者発妙

03音鳥如余処説仏以伽陵頻伽音為衆演説辟喩経中阿育王問波斯匿王

04妹尼云仏有八種音声以何為喩道人曰仏音厳妙无双无比唯今海辺

05有鳥名為羯随其頗有髣髴王即還曰使人求之未復得鳥旬日不鳴

06王甚恠之時有青衣荘厳以大鏡著鳥前於鳥見鏡中影驚欣歓鳴

07青衣旋之不得令鳥青衣皇我能令鳥鳴王言汝能使鳥鳴勉汝為夫

08人即取大鏡懸之四面鳥后中央四句見伴即使悲鳴声甚哀和□□分

09之一王意歓喜即発无上正真宮中綵女凡千人亦発无上道意従意従

10分遂信三宝鳥之音声所発如是覧於其真清浄妙音者乎案曰伽陵

11頻伽即名羯随文照与観意同之　又共命者為一有情為有情答二有情也
12釈迦与調達□□命鳥」給提婆食毒俱死天台義記（『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇六頁下）云共
　命両頭而
〈一四丁右〉
01同一体生死斉等故曰共命文玄一一云共命鳥者二頭一身即二有情若一死者
02即二俱死故言共命文肇云共命々者相伝云一身両頭文恩同之欽云共命者
03又勝天王名生々涅槃云耆婆」々々皆尼名此鳥以耆婆翻活或生或命文
04尋云彼土説法鳥樹風波共限六時」歟答信（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六七・六八頁中）云音限六時
　風常相続文
05尋云今五根等者小乗卅品歟爾者何不説四念処四正勤四如意足」歟答観
　云何故
06不説四念住等有疏釈云彼化生身然无体不浄等故而不倒執浄不浄心故不
07説身念雖无苦受亦不楽執心到不説念受知心无常励誠修道不説念心
08知法无我无我倒不説念法是故不説四念不曾造悪无煩悩説断熾然自励諸
09聖道不仮説修故四勤不説定慧兼修非恒散乱五通報得无労如意是故前
10三鳥音不説又略挙非鳥不宣已上又称讃云如是衆鳥昼夜六時恒
11共集会出和雅声随其類音宣暢妙法所謂甚深念住正断神足根
12力覚支□无量妙法已上故知此経如是等言非唯念住等之取余无量妙法也文
〈一四丁左〉
01尋云五根等者其相如何答照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六〇頁中）云是諸下次明演法和雅謂
　声音咸人演暢
02謂説法无滞」五根者一信二精進三念四定五慧能聖道」故総名根即此五
03法能排業或」故名為力七菩提分即七覚支一択法二精進三喜四除五捨六
　定
04七无学実覚七事能到故名為分八聖道分者一正見二正思惟三正語四
05正業五正命六正精進七正念八正道前二慧学中三戒学後三定学即是
06離明三学」初果已去見真諦理」皆名正道」亦名聖道」余如法界次第委
07明文円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五頁上）云七菩提分者諸経云七覚支」是也謂念択進喜軽
　安定捨前一兼定
08慧」次三是慧後三是定　尋云経云アミタ仏今現在説法」有何不足用畜
　生
09等説法」歟答恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三三頁下）云智度論問云浄土中諸仏有无量神力」
　何不但多化作仏
10処々説法度生乃化畜生皆現樹木等説法也答若処々仏身衆生即不能
11信謂為幻化也心不敬重於道難入所以不化作仏又如本生経説若菩薩
12作畜生身為人説法人以希有故聞皆信受又以畜生心真故不誑人聞
〈一五丁右〉
01則生信又恐有情衆生是欺誑故亦令无情樹木而演説法聞則□受文
02肇与観同之　又此衆鳥者依正二報中何歟答依報分也玄義分爾也
03私云此義不爾鳥者必正報之摂也　其土衆生……念僧等事　疑云衆鳥演
　暢根
04力覚道歟爾者聞者何念三宝歟答必不可限根力覚道」可暢仏地三身功徳
05无量法門歟而今挙少分故云如是等法」也総功徳法体不可過三宝也
06尋云无三悪趣上重云尚无三悪道之名有何意」歟答名体各別故也准論
07文」无三悪趣者説无体機嫌无三悪道之名者説名機嫌」也　又此一段
08中挙衆鳥説法等之種々荘厳相何為正歟答説法相為正」也
09高接下讃三下唱反下接高讃云者如先之料簡　文々句々理相同等事　尋云
10□如何答文々句々者非色経巻」衆鳥声也能同之　或説他方乃至機人天等
　事
11疑云離悪道者何等歟答説他方苦事」令覚動菩提心故菩薩往生」方説法」
　令
12離悪道」也故下云菩薩声聞聞此法処々分身転法輪也　又地獄封人天者

文点如何

〈一五丁左〉

01答封□□歟爰以法照五会讃（巻本・四七・『大正蔵』巻四七六頁下）引此文二云対人天一也高接下
讃云可唱反下接高
02讃云者如前　人天雑類等事　疑云雑類者何等歟答衆鳥等也云或現鳥
03身等一故也有云指往生機分一歟証无為法性一故　或使風光相応動等事
04疑云風光相応者何等歟答光説法音与風音一令相応二云事歟
05慚謝アミ師等事　疑云アミ師者何等歟答可二云アミタト一為調韻一書師
也
06謂上不思議与今アミ師一也下接高讃云可唱反高接下讃云者如先之料簡
07ミタ仏国真厳浄等事　疑云此一段者釈成経何文歟答総結上来五依
08報段已下以観経意一釈歟　往生彼国无余事等事　疑云此段置无余
09事也此言意如何答依報終故慇懃云无余事一此即結无有衆苦一也
10高接下讃云下接高讃云者可唱二反　彼仏光明乃至无所障導等事　疑云
11於色法為无障導於心法為无障導一歟答色法不障導一勿論也心法不障導也
12□云先云色法也　尋云経文説彼仏光明照十方国者有何益一歟答□文

〈一六丁右〉

01雖幽以果案之摂取衆生一為令往生一也次下釈云正坐已来経十劫心縁法
界照
02慈光蒙光触者塵労滅臨終見仏往西方又礼讃云アミタ仏下注□
03可見云々　彼仏寿命乃至故名アミタ仏等事　疑云所言无量寿為有量為无量
04々々一歟答今師意无量无量也又他受用故无量々々也　尋云仏果平等何
独
05云光寿无量一歟答恩（『小経疏』巻三七・三二頁中、『大正蔵』巻三七・三三頁中）二云問諸仏徳行皆同何故アミ独勝答
智度論云諸仏常
06光亦无大小遠近之異但由衆生根有浅深徳有原薄諸仏光所現不
07同然実平等故十住毘婆沙云諸仏常光不可以由旬数量為限遍満十方莫
08知辺際文円（『小経疏』巻三七・三五頁中、『大正蔵』巻三七・三五頁中）二云釈迦光明亦能照无量国一応名アミタ一答釈
迦現劣応身一常光
09一尋而已及現通放光一方照无量一彼仏現勝応身常光无量故受其名
10観二云問曰諸仏功徳斉等何故ミタ光明殊勝釈言法報功徳斉等但化身仏多
依
11本願有差別以本願故此仏光勝故願云設我得仏光明有能限量……不取正
覚文
12尋云及其人民者為寿命為人数歟答寿命也本仏寿随一故也玄一云問ミタ
是能

〈一六丁左〉

01化身何故合所化寿命釈答諸仏得名不定約唯所化尚以无失何況合説文
02測云正益有三无量一者光明二者寿命三者従衆文　又極楽衆生寿命无量
03故可名アミタ一歟答不可名歟但迦才釈爾也　又摂持一切无量法故云无
量歟
04答不爾一一法々々毎法无量也玄一記云問仏命无量故仏名アミタ其義可
爾何故
05衆生命无量之義亦彼仏一答彼仏願力衆生命長故名仏徳当有仏失文
06尋云アミ翻名如何答智恵疏（智円『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五一頁中―下）二云阿之言无ミタ言量也
何故名无量耶以四義
07故得名一光明照无量二寿命数限无量三大小弟子无量四生者補処
08无量由茲四事一以立尊号一文玄一記云今此経中略明彼四種一无□光
09々種无量故二无辺光照十方国无辺際故三无障光无人対障故即无
10対光四无導光无物能障故文　尋云阿僧祇者其数量如何答恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三三頁中―下）二云智
11度論云阿之言无僧祇言数劫言時経无数劫時摂論云不可数有二阿僧祇

12劫謂年同歳数不可数此是小劫二劫阿僧祇謂菩薩修道以劫為量此故

〈一七丁右〉

01亦不可数故名為劫阿僧祇此是大劫今ミタ寿劫者是年同歳阿僧祇

02劫也此是小劫其劫義如別章問彼仏寿越僧祇未知作仏已来于今

03近若久即恐臨滅度雖十念而難逢近即因未涅槃終百年而可望良有

04斯問故下答云文又云恩（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三三頁下）云成仏已来於今十劫須見所疑也

　謂成化已来始経十

05劫願生必見問是何劫答是小劫如梁摂論以行年双等歳為一数々□六十

06数為一阿僧祇謂五年両閏為双即一双二双乃至十双百双千双万双

07阿僧祇双名一小劫一所以知是双等劫者花厳経云娑婆一劫当彼一日一夜

　即以彼

08卅月為一月乃至十二月為一歳即両閏為双乃至僧祇故文信（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六七六頁下）

　云大論云无量

09億阿僧祇与恒河沙者多数量理同云々諸文雖異彼土専量大劫一恒河沙

10数劫耳　アミタ仏成已来於今十劫等事　疑云此段中説成仏遠近有何由

11歟元暁疏（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三四九頁下）云文中成仏已来於今十劫者為遣疑情有人疑

　言寿雖无量要有

12始終未知今者為始耶今解言今已所遠唯逕十劫当知今後无量劫住故

〈一七丁左〉

01論云荘厳主功徳成就者偈言正覚……住持文慈恩永観為十劫一歟元照

（『小経義述』、『大正蔵』巻三七・三六一頁上）云言十劫者

02准法花大通智勝仏時ミタ乃是十六王子釈迦既経塵劫ミタ豈不然楞厳勢

03至章云我於往昔恒沙劫有仏出世名无量光十二如来相継一劫准大本中

04即ミタ也今経大本皆言十劫乃是一期赴機之説不足疑矣文義述

（『小経義述』、『大正蔵』巻三七・三〇九頁中）云劫者

05寿雖十劫然世間不可数知一故名无量寿文希深義解云言十劫者一期赴

06機宣実非是算数之所能知也文　又余経中多説久遠義今云十劫豈不相

07違歟答経々異説也真言経等説无始无終五智如来一首楞厳経

（巻五、『大正蔵』巻一九・一二八頁上）説往昔

08恒沙劫有出世名无量光文　无量无辺乃至阿羅漢等事　疑云彼国□前三

09果人何云皆是阿羅漢歟答一従成仏始一有声聞歟一約終一云皆一歟慈恩述

　讃云

10名阿羅漢者断煩悩故得於尽智証无為故得无生智文

11兆載永劫亦无央等事　疑云兆載者何等歟答算数位也　又无央者文点

12如何答如上憬興（『述文賛』巻中、『大正蔵』巻三七・一四七頁下）云阿僧祇異名也一　一坐无福移亦不動

　等事　疑云无移与不

〈一八丁右〉

01動有何別歟答无移三世一不動四相一也　分身遣化往相迎等事　疑云

02分身遣化有何別歟答分身即化也　又九品来迎仏皆是化身歟答不

03爾但今釈約多分也総約機見不同一約報身徳用一也群疑論一（『大正蔵』巻四七・三七頁下）

　云釈甚

04深実相平等妙理二八法身如来本无生滅一以本願无限大悲接引衆生一従真

05起化十方世界一如来引接三輩九品一以化即真不来不去一随機応物一有

　往有

06還一若経拠化体即真一説无来去一観経拠従真一流化一現有往還一文

07高接下讃云可唱反下接高讃云者如先之料簡一　一坐百劫長時劫等事　尋云

　一坐

08者意如何答行菩薩行一時思暫時坐一祇過長時劫一云也　同因行至菩提等

　事　疑云

09此文意説何事歟答ミタ卅八願因也六度万行々也因行共至菩薩一故也

10誓願荘厳清浄土等事　疑云約誰人論誓願歟答付ミタ二論也　ミタ化至

　当心

11□等事　尋云当心坐者意如何答当中心生云也　花台独廻乃至間雑宝等事

12疑云説正報中何挙依報荘厳歟答所座故也高接下讃云下接高讃云者可唱二反

〈一八丁左〉

01如先之料簡円（『小経疏』巻三七・三五五中、『大正蔵』）云阿鞞跋致此翻不退転而不退有三位行念也通教初果以

02去斉羅漢位不退七地行不退八地念不退別教以住行向対之初地証念不退

03向但修耳円教初信至七信位不退八信以去行不退初住証念不退

04衆生々者等事　疑云文点如何答如上　尋云指何等機品云衆生々者歟答円測云

05初地已上无量善根方得生彼文自余人師約凡夫也　皆是アヒ跋致等事

06疑云指何位云アヒハチト歟答今処不退位也肇公義疏云大品経云不退故名アヒ

07ハチ是人更不為諸魔所動更无退転得无生忍未得忍者是生死肉身文

08其中多有一生補処等事　疑云一国中何多有補処歟答非□極楽□処

09一生補処致菩薩多云也慈恩疏（『小経疏』巻三七・三二五頁上、『大正蔵』）云資糧論云一生補処及最後身問為一

10為異答不同謂第十地菩薩更有一生所繋者欲入兜卒天若正住兜卒

11天中者名最後身大品経云是菩薩一生補処是菩薩最後身文　尋云但可以

12无量无辺阿僧祇劫説彼国菩薩可有説尽之期歟答有云爾也无過□万

〈一九丁右〉

01億仏土等有量能破云々　尋云一生補処者名義如何□□（『小経疏』巻三七・三二五頁上、『大正蔵』）

旧聖衆即助円浄謂

02諸菩薩助仏揚化一生補処十地菩薩更於兜卒天一度受生従兜卒天下

03即補前仏処而成仏文測云如智度論等菩薩有多種謂一生成仏名為

04一生二生三生乃至多生如仁王等或有後身菩薩即依彼身成仏道者今

05且挙一生如弥勒妙性菩薩類文一云二説一云十地菩薩皆名一生薬師経云□□故

06唯除本願更无別生能補仏処故名補処不同一生所繋二云即是一生所

07繋菩薩如是観音等雖是一生義分為二謂仏在名為一生菩薩後欲成仏時

08名最後身文信（『小経略記』巻五七・六七八頁上、『大正蔵』）云一生補処者或有補処過刹塵劫成仏无期如文殊等或

09有不久成仏如賢劫諸仏故知但約断或証理隣近妙覚名為一生不約時

10分遠近差別彼土菩薩速成仏者理応往他方随縁国土耳文

11衆生聞者乃至生彼国等事　疑云所言発願分斉如何答往生発願也円測疏云

12第三明往因即念仏名号乃至此意説云因是正因願是勝縁雖有其因无願

〈一九丁左〉

01不成雖有其願无因不成是故此中先発願彼正修因文　又以此発願正

02為往生安心歟答爾也　所以者何乃至倶会一処等事　疑云上説依正二報

03荘厳何偏挙聖衆倶会之相為発願境歟答爾也但今挙得果益也

04恵心略記（『大正蔵』巻五七・六七八頁上）云所以者何徴也得与如是等者答也此中随衆生愛楽故勧与

05菩薩倶会上如宝積経普明菩薩会如月初出時衆人愛敬踰於満月

06如是迦葉信我語者愛敬菩薩過於如来何以故由諸菩薩生如来故云々

07其中若有示見仏者亦応随喜乃至又弥勒下生経云欲食自然粳米欲著

08自然衣裳歟応精進云々准極楽応有此類異説如是行人消息文

09不可以少善根乃至生彼国等事　疑云少善者文点如何如上円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五五頁中下）云舎利弗下二別

10示又二一反顕二正示初文不可以少善得生則反顕可以多善得生也少善

11謂等閑発願散乱称名多善」謂執持名号要期日限舎利弗下二正示又
12四一修因二感相三顕益四得生初文執持名号執謂執受持謂任持信力

〈二〇丁右〉

01故執受在心」念力故任持不レ忘其人下二咸相是□□三顕益即得下四得
　生
02悉如文又以此等龍下文段何不論往生得否歟答付已下共有道理」也
03又観仏三昧等少善摂歟答今師意爾也　私云此義以外料簡也有何証拠」
　歟
04尋□諸師如何釈之歟答天台義記（『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇七頁上）二云問前云不可以少善
　根後ニ那云一日七日一心不散
05乱皆得生」歟答今不可以少曰為二多小時」特ニ由用心厚薄」耳若能七日□
　□不
06乱其人命終アミタ仏以宿願力」化仏迎摂心不顛倒」即得往生」何以故臨
　終一
07念用心以懇切即当得生也信同之肇公義疏云舎利弗不可以少善根福徳因
08縁得生彼国次簡小因」良恐衆生曾聞三仏説二臨終十念即得往生」我今天
09命未窮且当放逸」為遮此念」故言不可……彼国多持斉多持戒多念仏多
10誦経多礼多行檀布施乃得生彼」十住論云諸菩薩凡起少行発深大行以行
11□大故得大果報至心一念アミタ仏」滅八十億劫生死之罪」何況多念即
　是有行」
12又願往生二行願相扶何為不得」衆生」聞少善根不生彼国即懐疑或」多許
　功徳方

〈二〇丁左〉

01可得生」故如来教令一日念仏乃至七日念仏発願必得往生文慈恩同之
02慈蔵ミタ経記云初小因不得生舎利弗若有已下第二大因乃得生」初是小
　善
03根者非多小之少」是大小之小所以者何安楽国是仏菩薩所居之処惟大心
　所生
04小心不得生」故曰小」也若大乗門雖修少分善根」而識心発願亦得往生如
　経論説也
05元照（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三六一頁下）二云如来欲明持名功勝」先貶余善為小善根」所謂ル布
　施持戒立与造
06像礼誦坐補懺念苦行一切福業若无正信廻向願求」皆為小善」非往生
07因」若依此経」執持名号決定往生即知称名是多善根多福徳也昔作此解」
08人尚遅疑近得襄陽石碑経本文理冥符始懐深信」彼云若善男子□女
09人聞説アミタ仏一心不乱専称名号」以称名故諸罪消滅即是多功徳多善
10根多福徳因縁」彼石経本梁陳人書至今六百余載六竊カニ疑今本相伝訛脱文
11希深義解同之要決（『西方要決』、『大正蔵』巻四七・一〇七頁中）二云夫論善根多少只約念仏以明過去
　无宿善今生
12不聞仏号但今得聞浄土専心念仏此為大善設雖□□浄土発意願生進退

〈二一丁右〉

01未恒不決定判為少善文春秋晏子曰以一心可事百君以百心不可事一君文
02暁（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三四九頁下）二云顕示菩提心摂多善根」以為因縁乃得生故如菩
　薩地発心品云又諸菩薩最
03初発心能摂一切菩提分法殊勝善根為首故能違一切有情処所三業悪行功
　徳相
04応案云菩薩初発菩提之心能摂一切殊勝善根能違衆生功徳相応是故説言
　非
05言小善根福因縁得生彼国所以得知以此因者両巻中摂九品因以為三輩三
06中皆有発菩提心論中為顕此文意言大乗善根界等无譏嫌名文
07測云此即第二讃因殊勝称讃経云舎利子生彼仏土諸有情類成就无量无
08辺功徳非少善根諸有情類当得往生无量寿仏極楽世界清浄仏土即依

09此文有説理実初地已上无量善根方得生彼故云摂論等云一念アミタ仏生
　浄土
10者是別時意観経所説十六観等涅槃経云掃塔塗看病孝養父母供養諸仏
11菩薩衆生善根等皆是別事意一者一前中間習種解脱分善根者内念力故
12撃発旧種子閏而生往来若不爾者便不得生而摂大乗等別時者納依受
〈二一丁左〉
01用土故不相違文　尋云付不可以少善根等之文一諸師作異解一有何由一歟
　答於
02所釈経文分明諸師全不異解一文相幽玄異解不同也而今雖説少善不生一
　未
03明少善之相一而今案此文意一有其二意一一次下説執持名号得生故知指名
　号外
04自余諸善一云少善不生一歟二説一心不乱即得往生一故知設雖執持名号一
　非一心不
05乱一云少善不生一歟有此道理一故諸師各異解也又雖余行一一心不乱行之
　即得
06往生也何云少善不生一歟又雖名号一非一心不乱一不可生一何云即得往生一
　歟故知経意
07大約安心厚薄一説少善不生一也然則人師解釈多分約安心浅深一釈少善不
　生
08之義也　私云付随縁雑善恐難生一等之文一料簡之一有四意一歟謂一余行
　疎雑故
09云不生一如深心下釈一雖可廻向得生衆名疎雑行一也二余行散心故云
　不生一如下品
10上生釈一聞経十二部一心散故滅罪軽等也此二義於具足三心人一与奪之
　意且云
11不生一也又経説得生者一云一心不乱一釈云専復専等一此約行相一釈得
　生一也三
12余行挙不具三心者一云不生一如元照小経疏（『大正蔵』巻三七・三六一頁下）云一无正信一
　廻向願求等一也四念仏
〈二二丁右〉
01挙不具三心者一云不生一如智円小経疏（『大正蔵』巻三七・三五五頁中）云一等閑発願散
　乱称名一也此二義於不具
02三心人一以実義一云不生一也又礼讃序釈不生者一（『大正蔵』巻四七・四三九頁下）云一若欲
　捨専一修一雑業一者希得
03一二……千中无一等一此約安心一云不生一也又此四義中初二義仮令義
　也容有義也
04後二義真実義也必然義也　狂此人皮裏驢骨等事　疑云文点并意如
　何
05答如上高接下讃云可唱反下接高讃云先之料簡　十地已下劫難窮等事
06疑云文点意如何答初生菩薩久生菩薩无数限一云也　六識縦横等事　疑
　云文意
07如何答以六識一同時知万事一横也前後知縦也　専心専住等事　疑云心
　与注
08有何別歟答心者専能縁之心一注者専所縁之境一也　下接高讃云如先
　之料簡一
09聞説アミタ仏執持名号等事　疑云執持者安心起行中何歟答起行也新疏
　下
10云執持名号者此有二義一称能詮之名二念所詮之理当以称名為助以念
　理為
11正二皆専志故曰執持文聞持記序（『浄全』巻五・六四三頁上）云戒度七日聞持専一心而不乱
　是多功徳非少

12善根文　又為但持名号為兼称名号一歟答今師意当称名号也礼讃
（『大正蔵』巻四七・四四七頁下）　釈一心
〈二二丁左〉
01称仏不乱一故智円疏（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三五五頁下）　云初文執持名号謂執執受持謂任持
信力故執受
02在心念力故任持不忘文西資鈔云信力故執受在心等者由在心不忘所以口
03常称名文有云唯識論云名称音聞声依声仮立文名号必依声一立者也
04尋云執持名号者観称中何歟答今釈雖不云称名一玄義別時門（『大正蔵』巻三七・二五〇頁上）
釈一日七日
05称仏之名一礼讃後序（『大正蔵』巻四七・四四七頁下）　釈一心称仏不乱一又（『大正蔵』巻四七・四四八頁上）　釈十
声十声又（『大正蔵』巻四七・四四八頁上）　釈若称仏往生
06者云々諸師皆以如此也　難云今聞説アミタ仏者指上光明寿命无量故名
07アミタ仏之説一歟若爾者執持名号者聞観念之境一謂可観光明寿命等一
故
08何云称名一歟又付経之文言一執持二字不必聞称名一如何答難勢実□爾也
09但論蔵性相云名句文身依声仮立一故名号必可口唱之一也雖爾一竪著共
不
10可一偏一経論文言多含付執持名号一可有三業之行也是以諸師解釈
辺々也
11若一日乃至不乱等事　疑云所言七日等修行者長時別時中何歟答長時也新
12疏下云若利根者若一時若一日即得観仏三昧若中根者若三月若四
〈二三丁右〉
01月方得定若鈍根者乃至七日方得定若善根者若一月一年乃至百年
02亦无所得推之可解文　又為臨終行相為尋常行相歟答尋常行相也
03略記恵心（『大正蔵』巻五七・六七九頁上）　云問一日七日等為是尋常為臨終耶答由尋所行得臨
終正念也
04然義記云心不顚倒即得往生一何以故臨終一念用心懇切即当得去一此
釈
05臨終正念之用非言七日必近臨終一観云問曰今説七日之行為近臨終
06為通尋常釈有両解一云唯近行故感禅師云観経臨終者極少一念十
07念亦得往生アミタ経対有命未尽経曰始已或一二日乃至経於多日能念仏
08名亦生浄土无量寿経対長寿不死之者尽形寿一向専念方得往生亦
09通尋常問曰若言通尋常者七日之後遇縁作悪豈得往生如遺教経云嗔恚
10之害破善法又劫功徳賊无過嗔恚釈言不爾七日行後設雖造罪而此行
11法決定業故是人終時不顚倒懺悔罪必得往生或七日後不遇悪縁以是大
12善威徳力一切諸仏所護念故此解為勝不爾便有尋常行中无定業過文
〈二三丁左〉
01又一心者定散中何歟答散也称讃経云繫念不乱或有約事理一師
02通賛二（巻中、『大正蔵』巻三七・三四三頁中）　云一心者更无間隔故名曰一心不乱者専注无散
也文
03我見是利故説此言等事　疑云我見者為知見為眼見歟答知見也称讃
04経説観一也肇云謂我法眼見是勝利勧汝勤修往果也
05慈恩（『小経義疏』、『大正蔵』巻三七・三一六頁中）　云我了々見々有如是勝利故勧汝往生也文　又我見
等之言者指上何
06文等歟答上依正二報発願起行等也称讃経（『大正蔵』巻一・三五〇頁上）　云又舎利子我観
如是利
07益安楽大事因縁説誠諦語若有浄信諸善男子或善女人得聞
08如是无量寿仏不可思議功徳名号極楽世界浄仏土者一切皆応信受
09発願如説修行生彼仏土文　又利者何等歟答利益也天台記（『小経義記』、『大正蔵』巻三七・三〇七頁上）
云応当発
10願一心修行願行相扶必得往生文諸師多釈上来依正二報功徳利益行者
11故一也円（『小経疏』、『大正蔵』巻三七・三五五頁下）　云舎利弗下三結意我見是利故説此言者謂見彼

世界極

12楽寿命无量二報荘厳之利也遂勧衆生発願生彼故二云故説此言

〈二四丁右〉

01信（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六七九頁下）二云引証勧成衆雖信解前説心有少猶預極楽功徳不可言宣唯大聖

02境恐非我分且願且恐故以証勧此有五文一以自証知見勧二引他方仏説勧

03……此是初也意云我以仏眼観明見此勝利故説彼因果汝等勿有疑文

04又（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六七九頁下）二云問有人謂云於諸浄土極楽為下何故専勧彼土因果答云知其一未知其

05二於賢劫中唯除釈迦余仏国土皆名浄土彼是尊時既有男女便利鳥

06獣豈勝極楽又下八万无央数浄土荘厳妙事皆摂在極楽豈各別土為

07勝総摂処為劣耶文観云明往生証此文来者為断疑生信仏証誠之於中

08有二一明自証二明他証文　若有衆生聞是説者応当発願等事　疑云

09上既発願畢何重勧発願歟答上挙発願等境釈欣求之由今結成正令

10発願也　尋云応当発願生彼国者者説別時意歟答信（『小経略記』、『大正蔵』巻五七・六七九頁下）云此中勧前願

11行相応兼亦勧彼唯発願也文略行因但云生彼々々言義兼遠近々顕由

12行即便往生遠顕由願遂当往生文観云若有衆生等次勧願因唯勧

〈二四丁左〉

01願挙初略後具足応云願行倶勧故称讃云一切皆応住意発願如説

02修行生彼仏土文諸師多如永観釈也　極楽无為乃至恐難生等事

03疑云随縁之義如何答随機縁也八万正教共随縁教也然而今別取一法指

04其外云随縁也　又雑善者何等歟答念仏外諸行也此即正雑二行中雑行也

05又置恐之言有何意歟答修雑行欲往生釈難生故旦憚置恐之言也

06授決集（『大正蔵』巻七四・二九九頁上）云恐慮之洞不是言説文今師簡雑善之処必置恐之言給也

07意云観経等説生今経不説不生故也　又雑善何難生歟答疎遠故也

08疎遠故力弱也故般舟讃（『大正蔵』巻四七・四五三頁中）云万行倶廻皆得往念仏一行最為尊廻生雑

09善恐力弱无過一日七日念文　教念ミタ専復専等事　疑云経唯云執

10持釈家有何意云教念歟答三業行中身口雖有具不具応業必可有

11故也　又専復専両重意如何答苦勧也　私云上来料簡此義不爾歟其

12故先随縁之言難定判歟日想観釈（『定善義』、『大正蔵』巻三七・二六一頁中）云境縁非一等此妄縁也地想観釈

〈二五丁右〉

01（『定善義』、『大正蔵』巻三七・二六三頁下）云勧発流通随縁広説此機縁也花座観釈（『定善義』、『大正蔵』巻三七・二六六頁中）云三業随縁転定想逐波飛

02此妄縁也次雑善之言亦難定歟礼讃序（『大正蔵』巻四七・四三九頁上）釈往生行相无余修下云不

03雑余業此善業雑念仏无間修下釈（『大正蔵』巻四七・四三九頁上意）云不以余来間此悪業来間兼同雑義不以貪嗔来間者

04此妄心也又雑義也又下釈徳下（『大正蔵』巻四七・四三九頁中）云无外雑縁得正念故雑之言有三謂善業悪業妄念次下結釈（『大正蔵』巻四七・四三九頁下）云専

05雑有異……修雑不至心者此雑亦可有三又弘決二（『大正蔵』巻四七・六二一頁下意）云大論十二云貪著世名不専勤

06求……而求仏道而為雑行如此例非一若爾約此等義辺指善悪二業雑

07念仏善云随縁雑善恐難生歟又般舟讃文意同之歟或如下品上生人

08聞十二部経首題意散乱聞ミタ名号心不散約此等義辺云恐難生歟如

09此一与奪傍正常事也　難云若如汝所解一者選択集第三章（『大正蔵』巻八・一七頁中）云
　不可以少善根
10者諸余雑行難生彼国一故云随縁雑善恐難生……然則雑善是少善
11根也文爾者相違如何答此難尤爾也但如上婁料簡雑善之言中有善
12悪一中約善一辺一云余善少善根歟諸師受少善根文一或約行体一余行
〈二五丁左〉
01云少善一約安心一名号云少善一也堪能機前何善全不可有恐難生之義一
　也
02若爾者釈文極楽无為涅槃界者讃嘆所生浄土一随縁雑善者約往生修
03因一謂雑者能雑也善者所雑也付能雑一有三一一三業善行当礼讃四修
04中无余修下不雑余業一二身口衆務悪業当无間修下不以余嗔業
05来間一三意地妄念当无間修下不以貪嗔煩悩来間一也善者念仏善也恐
06難生者当一二三五乃至千中无一一也意云観経義亘念仏諸行一広釈往
07生行一礼讃一向付三業念仏一行一勧進故厳簡余行悪業等一今付名号
　一
08行一云随縁雑善恐難生一対執名号之一法一故又経云不乱一釈専復専一若不
　専
09復専一設執持名号一往生不可一歟又付此人一以口業一料簡云一余行疎雑
10故云不生一如深心下（『散善義』、『大正蔵』巻三七・二七二頁中）釈雖可廻向得生衆名疎雑行一也二
　余行心散故云
11不生一如下品上生釈（『散善義』、『大正蔵』巻三七・二七六頁中意）聞経雖十二部一心散故滅罪軽等一此
　二義於具足三心人一
12以与奪之意一且云不生一也三余行挙不具三心者一云不生一如元照小経疏
　（『大正蔵』巻三七・三六一頁下）云
〈二六丁右〉
01无正信一廻向願求等也四念仏挙不具三心者一云不生一如智円小経疏
　（『大正蔵』巻三七・三五五頁中）云等
02閑発願散乱称名一也経説得生者云一心不乱一釈云専復専等一此約行相一
　釈
03得生一也又礼讃序釈不生者一（『大正蔵』巻四七・四三九頁中下）云若欲捨専修雑業者希得
　一二……千中无一
04等一此約安心一釈不生一也是二義於不具三心人一以実義一云不生一也今
　云此四義中
05初二義仮令義也容有義也後二義真実義必然義也
06倍皆然等事　疑云意如何答如七日長時倍行云也　坐時即得入三賢
　等事
07疑云无生与不退有何別歟答浅深異也謂坐時无生者浅果報无生也
08処不退也証得不退者深得生已後位不退也初住也云入三賢一故也有云
09无生者約証理一因中説果也　ミタ侍者无辺観世音等事　疑云今
10挙二菩薩一有何由歟答与諸聖衆内一先挙勝一也　又无辺者何等歟答
11勢至也　百許千万数出世等事　疑云文点并意如何答如上意云二菩薩
12出世数也　万中无一出煩籠等事　疑云菩薩利益似无其実如何答今挙
　衆
〈二六丁左〉
01生罪根深重之過一也　人天少善乃証六道等事　疑云人天少善者説何事
　歟答
02人天少善当難証一既証六通一哉云也　又无為六通者聖道浄土二門中何
　門
03利益歟答今不分別也聖道无為也　雖得見聞希有法等事　疑云指何等
　法
04云希有法一歟答大方仏法也　縦使連年放脚走等事　疑云文点并意
　如何

05答如上意設雖不麁心懈怠一不成善事歟　趁（チン）　貪嗔満（リ）内胸（ニ）一等事　疑云
06文点并意如何答如上意云外相（ハ）勤行　内心有（トメモトメ）三毒云歟　貪嗔即是身三
　業等事
07疑云身者三業之随一也何云身三一歟答設意地起貪一口出言一皆為身之利
　益也
08故総云身三業一也花厳経第四十（般若訳、巻一〇・八四五頁上）『大正蔵』云我於劫者无始初中由
　貪嗔痴発身口
09意作諸悪業无量无辺若此悪業有体相者尽虚空不能容受文
10唯識云名身文身句身文意云身者於物二云所依也一也有云唯識云体依止義
11即為名身成唯識（巻二〇、『大正蔵』巻三一・五七頁下）云体依聚義総説名身　念仏慈悲入聖聚
　等事　疑云
12念仏者称念歟答爾也
13文永五年暦九月四日子時許書了

*1『宗学院論集』九一号、二〇一九年。
*2『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』二〇号、二〇二〇年。なお、「（表）『法事讃疑芥』所引『小経』註釈書と引用回数」（三三―三四頁）において、円測『阿弥陀経疏』の項目が誤って重複していたため、ここに記して訂正する。
*3本稿では『法事讃光明抄』を『法事讃疑芥』と呼称する。その理由については赤松・西村・佐竹前掲稿（二〇一九）一六七頁を参照されたい。
*4赤松・西村・佐竹前掲稿（二〇一九）一八〇頁―一八二頁を参照。
*5導空は「**道**空」と表記されることもあるが、本稿では、『法事讃下管見鈔』（神奈川県称名寺蔵、金沢文庫管理。目録番号：九二―九―一・二。）において示されている「導空」の表記を用いる。
*6九品寺流の系譜について、例えば『法水分流記』では、以下のように示されている。

阿弥陀房と道教は長西の門弟として、導空（性仙）は道教の門弟すなわち長西からみれば孫弟子として位置づけられている。（野村恒道・福田行慈編『法然教団系譜選』二三―二五頁参照。なお本稿において扱わない諸師の名は省略して示している。）
*7『選択集』の他には、たとえば『逆修説法』において言及が見られるが、『選択集』と同じ理解が示されている。（『聖典全書』六、一五九―一六〇頁／『昭法全』二九六頁。）
*8本稿で引用する九品寺流諸師の記述については、便宜を図って括弧や句読点、文字囲み、傍線、訓点等を私に付した。
*9長西は「執持名号」の釈において、称名のみならず観念を含む理解を見せている。詳しくは赤松・西村・佐竹前掲稿（二〇一九）一七四―一七五頁ならびに佐竹真城「称名寺聖教『往生礼讃光明抄』について」『仏教学研究』七六

号、二〇二〇年、六六頁―六八頁を参照されたい。

*10〈浄土疑芥〉とは、『法事讃疑芥』を含む長西の一連の著作群の総称である。詳しくは赤松・西村・佐竹前掲稿（二〇一九）一六七頁を参照されたい。

*11詳しくは岸章二「金沢文庫所蔵『観経疏光明抄』玄七第五（？）同序三第一の本文及びその解説と光明抄研究の一問題」『宗学研究』巻一一、一九三五年）を参照されたい。

*12巻三、二五丁左―二六丁右。なお、書き出しは、「又付此人以口業料簡云…」となっており、異なっているが、その後は全く同内容が述べられている。

*13神奈川県称名寺所蔵、金沢文庫管理。目録番号：七五―六―一。『阿弥陀経抄』について、詳しくは能島覚「称名寺聖教『阿弥陀経抄』について」『金沢文庫研究』三二三号、二〇〇九年を参照されたい。また、本稿での『阿弥陀経抄』引用では、出拠として能島氏の論文の頁数を示した。そのうえで、能島氏の翻刻を修正した箇所は網掛けで示し、原本の丁数も併記している。

*14詳しくは、井上慶淳「法然門下の教学の研究―九品寺流の教学について―」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第四〇集、二〇一八年を参照されたい。

*15「古信作仏」…字の並びは「古作信仏」となっているが、「古」の下に挿入符号が確認でき、また「信」の右傍に入れ替え符号が見られる。すなわち、「古信作仏」となる意と考えられる。しかし、入替指示の線は「信仏」の間にあるようにも見えるため、「古仏作信」の可能性も想定できる。本翻刻では、「古」の下に「信」の意と判断して「古信作仏」とした。